

引退

社会環境工学科3年 明上春香

自信がほしい。どれだけ練習してもどれだけ良い結果を出すことができても自信を持つことができず、“私なんて”とってしまう。ほんと悪い癖だと思います。この癖をとにかく直したい気持ちが強い一年間でした。

毎年何かとケガが絶えなかったのですが、今年度はケガを1度もしませんでした〜♪徹底しました。大変でしたがやってよかったです。

去年の春ごろ、審査を受ける予定だったのですが、的中が伸び悩み射が定まらないようになってしまい断念しました。予定していたことができなかつたことに焦りこのままではダメだと思い、今までの射形の動画（2年間分）と記録ノートを見て、対策したときに起きる射癖のパターンを分析しました。それをもとに押手肩からの伸び合いの習得を念頭に、射癖がでるギリギリを見極め感覚を磨くことを徹底しました。

選手権、地区体。練習はそこまで悪い状態ではなかったのですが、結果としては足を引っ張ることになってしまい悔しい思いをしました。自分で自分にプレッシャーをかけてしまったことが要因であると考えられます。“私なんて”と思わないようにと余計なことを無駄に色々考えてしまいました。

リーグ戦に臨むまでに、2つの地方大会と昇段審査に挑みました。1つ目の地方大会では、みんな帰省しているときに北見工大からの参加者は私だけでちょっと寂しかったです。他大学の参加者も少なかったのもあり個人優勝をすることができました。その後の地方大会では、高段位の人との三人団体の大前で下手に外せない怖い怖い〜！とすごく緊張してしまいずっと足を引っ張っていました。なんとか決中で貢献することができ団体優勝しました。射癖として戻り離れがずっとあったのですが、このころぐらいからひどく出るようになっていました。これから審査受けるのによろしくない。押手肩から伸び合えるようになってきたいまに改善を試みていいものかどうすべきか悩みました。リーグ戦のことも考え、押手肩を重視することにしました。

10月旭川審査とリーグ戦。入部したとき初段すらもっていなかったのに現役の間に参段取りたい！と思い、1年生のときから密か(?)にかつ着実に取得していき今年度取得のチャンスが巡ってきました。リーグ戦の団体練習もちゃんと参加しつつ、矢数を落としたいくない。という気持ちが強く審査の練習を満足にするにはとても大変でした。長いこと取り組んでいたこともあったので焦りの気持ちはなかったのですが、入退場や座射を他者と合わせるといった練習を大学では(広さや所作における時間のかけ方の違いから)難しく、2週間部活の練習前後に武道館に通うのみという状態でした。この2週間のうち3回師範に見てもらえる機会があり、戻り離れじゃない綺麗な離れができるようになりました。このときからかな“私なんて”から“私でも！”と思えるようになっていた気がします。

公共交通機関上、審査講習会が終わる1時間前に到着し一緒に入るであろう人たちと1回合わせることはできず、不安が募りました。講習会が終わった後、閉館までの3時間1人で黙々と歩幅調整、所作の確認、イメージトレーニングをしました。緊張・不安・焦りがこの3時間でなんだかバカバカしく感じるようになっていました。

審査当日。午前中筆記試験、午後実技試験で実技試験を受けるときには緊張していた“は

ず”といった感覚で全然緊張しておらず、「大学弓道3年間の結果。今の私を見てもらいに来たんだ。やるべきことをやろう。」と、とても落ち着いて挑みました。

まともに歩くことができず歩き方が変だと言われ続けた私が、参段取得することができました。嬉しかったです。

リーグ戦。正直IV部リーグなのでそんな苦戦することない。といった気持でした。そのおかげか1日目落ち着いて挑むことができ、チームが危ない状況でも常に貢献するができました。2日目は1日目落ち着き丁寧にやりすぎ会を持ちすぎた疲労感がでてしまい、調子が悪く半矢以上を出すことができませんでした。反省しています。

結果、みんなで頑張ることができ想像していたよりも苦戦しましたがIII部リーグ昇格することができよかったです。

地方大会での活躍、審査昇段、リーグ昇格これができるのは“私なんて”から“私でも”と思えるようになったからなのかな。そう思えるようになった具体的なタイミングやきっかけはわかりませんが、現役最後に自信を持って良い形で引退でき、とても嬉しいです。

弓道は一旦お休み。せっかく押手肩からの伸び合いの感覚を習得できたのだから引きたいという気持ち。と戻り離れや狙いが会に入ったときズれる癖を大学在学中に直したいと思っていることから、それなりに引きたいとも思っています(笑) これからは、大学生として別の戦いに挑んでいきます。これからも、もっとできることを精一杯やって自信をもってやっていきたいです。